

ヴァイオリニストTAIRIKの戯言

〔第82回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

✦ 文 佐田大陸 text by Tairik Sada ✦

音楽院のおっちゃん

僕は3歳から15歳まで、信州長野の諏訪で過ごしました。当時、辺りは田んぼだらけの田舎町で、小川で糸にスルメを巻き付けて垂らせばザリガニが獲れ、6月頃になるとホタルが舞いました。お盆に行われる諏訪湖の花火大会は圧巻です。

たまたま当時住んでいたマンションの隣が、今では国の重要文化財に指定され「千人風呂」で有名な片倉館でした。その片倉館の一角を間借りしていた「諏訪音楽学院」という音楽院で4歳の時に、ヴァイオリンを習い始めました。諏訪音楽学院ではヴァイオリンとピアノの錚々たる先生方が教えに来ていました。

そこで出会ったのが、諏訪音楽学院の立ち上げから携わり、経営をしていた茅野雅英さんです。彼は自分より40歳以上年上の大先輩です。小学校高学年の頃だったか、中学生になったくらいだったか、将棋という共通の趣味があることに気づき、仲良くなってきました。

「おっちゃん」と親しみを込めて呼び、しょっちゅう将棋を指しました。これだけ年の離れた方とここまで「馬が合う」と感じたのは後にも先にもおっちゃんだけでした。

将来音楽で生きていくのか、それとも別の道に進むのかまだわからない時期で、音楽院に行く目的がヴァイオリンよりもおっちゃんとの将棋になっていました。おっちゃんの休みの日に朝から晩まで将棋を指していたこともざらにありました。15歳になってからは東京に出たので、おっちゃんと会える頻度は極端に少なくなりました。

時折帰るたびに諏訪の変化を感じます。駅は自動改札になり、昔は駅前のシンボルのように思っていたデパートは新しい建物に変わりました。当時ホテルが見られた小川もコンクリートで覆われました。

2022年末、80歳を迎えたのをきっかけに、おっちゃんは長年勤めた諏訪音楽学院を畳む決断をしました。まだまだ昔と変わらず矍鑠としていたため、周りからはとても惜しまれましたが、「人様にご迷惑をおかけする前に」と自ら一区切りとしました。

今では毎年僕の長野での公演を夫婦で聴きに来てくれます。招待しようとしても、頑なに断って自分でチケットを買ってくれます。おっちゃんの「寛大なお心」により昔から軽口を叩き合うことを許されていた仲で、お互いに称賛し合うなんてことはありません。

それがこの間の公演を聴いて、「す

ごく良かったぞ」なんて初めて褒めてくるんです。柄にもないよ。でもおっちゃんの生き様、本当にカッコいいと思う。

長生きしてくれよ、おっちゃん!!

profile

TAIRIK(たいりく) ヴァイオリニスト / ヴィオリスト / 作曲家

桐朋学園大学音楽部卒業、同大学院修了

ヴァイオリン & ピアノによる3人組インスト・ユニット「TSUKEMEN」を結成後、キングレコードよりメジャーデビュー。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパなどで700本を超える舞台に立ち、50万人以上の観客を魅了。近年ではTSUKEMENに加え、古澤巖氏と結成した弦楽四重奏団「品川カルテット」、水谷晃氏と結成した「MIZUTANI × TAIRIK」も大反響を呼んでいる。

「徹子の部屋」「題名のない音楽会」「きょうの料理 栗原はるみのキッチン日和」など数多くのTV番組に出演。SBCラジオ「TSUKEMEN TAIRIKの信 TAIRIK発見」毎週月曜 15:00台にレギュラー出演中。

<https://tsukemen-music.com>

